

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	事業地住民の生活向上 事業地のインフラが整備され、地域住民の生活環境や経済状況が改善される。
(2) 事業の必要性(背景)	プロジェクト対象地域であるラタナックモンドル郡スダウ集合村のラスメソンハー村、コクチョー村、アンドックドルモイ村の3村にまたがる地区では2008年度に日本政府の支援で240ヘクタールの土地の地雷が除去され、農地として活用できる状態であるが、この土地には整備された道路がなく、雨季には地面がどろどろのぬかるみとなり、農耕車のみならず人の往来も不便な為、農作業や物資の運搬に支障をきたしている。 当団体では、調査会社の協力を得て当該地域の経済実態を把握し、村長やコミュニティーをはじめとする住民との対話をもとにしたニーズ調査を行ったうえで、土地の農地化支援、住民に対する農業技術支援およびインフラ整備支援を現地行政機関（PDRD（バタンバン州地方開発局）やCMA C（カンボジア地雷除去センター））と協力しながら実施してきた。 このような活動の中で、前述の農地への往来と国道57号線に接続する州道を利用した農産物、資材等の運搬を便利にする為に南北に2本の農道（西側1.7km および東側3.4kmの道路。別添地図参照）を作って欲しいとの住民からの強い要望に接した。住民からは、道路建設用地の無償提供、工事実施における協力、完成後の道路の維持管理方針について明確に提示されている。 2本の道路のうち、まずは西側1.7kmの農道は当団体の自己資金により2010年度に建設し、西側農地への往来が非常に便利となったが、東側農地への往来は依然として不便なままであり、住民からは引き続き東側3.4km道路建設の要望が寄せられている。 本案件で建設予定の道路周辺には40世帯以上が農地を所有しているが、その半数が農地へのアクセスが困難であることから農業を営むことができておらず、残り半数は何とか農業を営んでいるものの、道路が無いと、自宅から農地へのアクセスに平均60分かかっており、農耕具の運搬に多大な労力を強いられたり、頻繁に農地へ赴けないことから、農作物の手入れが行き届かない、といった問題が生じている。

(3) 事業内容	①道路建設 地雷除去後に農地として利用されている土地に道路を建設し、農道として、また周辺の集落を結ぶ道路として活用する。 道路は長さ 3.4 km で、ほぼ南北に真っ直ぐに伸び、雨季の間も通行可能なラテライト舗装を施し排水のための側溝とカルバートを備えたもの。 道路に損傷が発生しないよう 6 輪超の車両の進入を阻止するゲートを設置する (PDRD と合意済み)。 施工は専門業者 (CMAC) へ委託する。施工管理は道路設計者の PDRD と委託契約を結び実施し建設期間中は当団体スタッフが 2 週間に 1 度現場を訪問し、PDRD の専門的な助言を受けつつ施工、進捗状況のフォローを行う。 なお、完成した道路の利用に際し、通行料等を課すことはしない。 ②住民向け道路維持管理セミナーの実施 (自己資金) 当団体が PDRD と CMAC の協力を得て、道路維持管理委員会 (後述) をはじめとする現地住民を対象に実施する。 PDRD 作成のマニュアル (別添) に沿って道路維持管理委員会や各関係者の役割、道路の重要性、道路損傷防止方法、損傷時の修理方法、住民参加の重要性などを共有・指導する。 本セミナーの実施により、道路の維持・修繕方法を指導し、住民の道路に対する責任感やオーナーシップの醸成を図る。
(4) 持続発展性	■ 建設される道路はアンドックドルモイ村およびコクチョー村へ引き渡され、両村が管理責任を負う。 ■ 地域住民においては既に道路維持管理委員会が立ち上げられており、道路の日常的な維持管理を担うこととしている。 ■ 道路維持管理委員会では、本年 7 月にワークショップが行われ、同委員会や住民、村長等の役割分担が確認され、道路に対する住民のオーナーシップ意識が醸成されている。 当該ワークショップでは、道路の補修に費用が必要となった場合には、住民による寄附等によって賄うことも確認されている。 ■ 道路維持管理セミナーを実施することで、道路の維持管理に関する住民の参加意識を高め、道路が損傷した場合は、住民自身で補修することが可能となる。 ■ 住民において対応できない大規模な損傷が発生した場合は、村長を通じて PDRD へ補修を依頼することとしている。(PDRD の支援が得られる旨は書面にて確認済み。) 以上の点から、建設される道路は地域住民が積極的に維持管理・補修していくことが見込まれ、住民において対応できない補修等については、PDRD が対応するとの体制が確立している。 なお、当団体は本件事業地における活動を今後も続けていく計画であり、道路建設後もモニタリングを行い、道路の維持管理方法について

	て適宜住民へ指導を行う予定である。 上記のような対応でも住民の道路委員会への参画意識、自前での補修管理意識が不十分な状況が懸念される為、住民参画による補修維持管理の為の Action Plan を別途策定し実施する所存です。Action Plan 内容としては(1) 定期的な道路補修ワークショップ開催、(2) 道路管理委員会の具体的活動内容の策定、(3) 当団体のカンボジア人スタッフが本道路管理委員会オブザーバーとして参加し資金管理モニタリングも含め運営指導を行う。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	① 農地を所有していながら、農地へアクセスする道路が無かったために農業を営むことができなかった農民が、農業を始めることができる。(裨益者数：約 20 世帯×5 人(平均世帯人数)＝約 100 名) ② 居住地から農地へのアクセスが平均 1.6 km 程度短縮されることで、農耕具の搬入が容易になる。(裨益者数：約 30 世帯×3 人(1 世帯当たりの平均農業従事者数)＝約 90 名) ③ 建設後の道路周辺に移住する住民において、農地へのアクセスが容易になる。(アンドックドルモイ村から 10 世帯、コクチョー村から 18 世帯程度が移住見込み。現在親と同居している世帯の独立世帯を含む)。 ④ コクチョー村とアンドックドルモイ村の相互の往来が可能になる。また、これまで国道 57 号線に接続する州道に出るためにラスメソンハー村を経由しなければならなかったアンドックドルモイ村の住民が直接州道に出ることができ、国道 57 号線への接続が約 3 km (12 km→9 km) 短縮される。 このように往来が容易になることで、村民が農産物等を村外へ売りに行くことができるようになったり、仲買業者等の往来も活発になることが予想され、地域経済の発展につながり、住民の収入向上が期待される。 ⑤ なお、バタンバン州地方開発局の推定によれば本道路が建設された場合の車輛等の 1 日の通行量は下記の通りである。(通行量の算出は 2010 年末のアンドックドルモイ村及びコクチョー村住民の保有する各車輛等が 1 日 1 往復すると仮定) ➤ 自転車：40 台 ➤ 自動二輪：32 台 ➤ 荷車(牛の牽引)：9 台 ➤ トラクター(荷物運搬)：32 台 ➤ 自動車・トラック：当面見込まず(現在保有している住民がいない。) 【裨益者数】 以上より、事業全体の裨益者は、コクチョー村 82 世帯 303 人とアンドックドルモイ村 112 世帯 508 人(合計 194 世帯 811 人)および、周辺集落の仲買業者等と言える。 【成果を測る指標】 住民の収入向上については、世帯ごとの月額収入額を指標とし、事業開始前と開始後に住民にインタビューすることで確認する。